



特定小電力ハンディートランシーバー

# HX812

取扱説明書

このたびは、400MHz 帯特定小電力  
トランシーバー HX812 をお買い上  
げいただきまして誠にありがとうご  
ざいます。

HX812 は当社の厳重な品質管理お  
よび検査のもとに生産、出荷され  
ておりますが、万一ご不審な点があ  
りましたら、なるべくお早めにお買  
い上げいただいた販売店あるいは  
(株)スタンダードの営業所、サービ  
スセンターへお申し付けください。

## ご使用のまえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。  
左図の場合は、感電注意が描かれています。



●記号は禁止の行為であることを告げるものです。  
左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。  
左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

### 安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

## ▲ 警告

- 当社指定の電池・充電器以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 使用できる電池は単3アルカリ電池、単3マンガン電池と別売のニッカドバッテリーパック CNB810 です。
- ニッカドバッテリーパック CNB810 を充電するときは当社指定の充電器 CSA810 を使用してください。



- 濡れた手で電池を取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、機器の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



## ▲ 警告

- この機器は日常生活における防水構造 (JIS 防噴流形：JIS 5 級相当) になっています。しかし、この機器を水につけたり、水道やシャワーなどの水流を直接かけることはしないでください。火災・感電・故障の原因となります。水に濡れた場合は、水滴を早めに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 端子に水滴のついたまま充電しないでください。火災・故障の原因となります。



- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電池は分解しないでください。電池を漏液・発熱・破裂させる原因になります。



- 使用済みの電池は火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。
- 電池の端子はショートさせないでください。発熱により、やけど・故障の原因となります。電池を単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。
- 本機の分解およびアンテナの付け替え等は、電波法で禁止されています。絶対に行わないでください。改造した機器を使用した場合は、電波法により罰せられますので、ご注意ください。
- 本機は、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則 (照明規則) 第 2 条 8 号「工場設計の認証 (認証) を受けた無線局」です。本機の背面に貼られている証明ラベルは絶対にはがさないでください。



## ▲ 注意

- 航空機内や病院などの使用を禁止された場所では、この機器の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。
  - お手入れの際は安全のため電源を切ってください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
  - 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
  - 外部スピーカー／マイクコネクタのカバーは、当社指定のオプションをを使用するとき以外は、絶対に外さないでください。防水性が低下し、感電・故障の原因となることがあります。
  - 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
  - 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 
- 自動車などの運転中はこの機器を操作しないでください。安全運転の妨げになることがあります。
  - 連続して送信をしないでください。機器が熱くなり、やけど・けが・故障の原因となることがあります。



## ▲お願い

- 充電は、電源を切った状態で行ってください。
  - バッテリーパックは、ご使用前に必ず充電器で充電してからお使いください。
  - 電池が消耗すると、LCDに“Lo”表示が点灯します。このようなときには、速やかに充電を行ってください。
  - 無線機、電池パックおよび充電器の端子が汚れていると、充電できないことがあります。充電端子はいつもきれいにしてお使いください。
- 
- 希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になったニッカド電池は廃棄せず、当社営業所またはリサイクル協力店へご持参いただくか、電池を分別している市町村では、その規則に従って処理してください。



Ni-Cd

左のマークはリサイクルの  
シンボルマークです。

# 目次

本機の特徴.....	2	応用操作.....	25
梱包品一覧.....	3	グループ通話.....	25
各部の名称.....	4	レピータ運用(半複信方式).....	26
本体各部の名称.....	5	<b>MCA 個別呼出し運用</b> .....	28
表示部名称.....	8	MCA 個別呼出し運用への	
<b>準備</b> .....	9	切り替え.....	28
電池の挿入.....	9	MCA 個別呼出し運用のための	
ベルトクリップの取り付け.....	10	設定.....	29
ハンドストラップの取り付け.....	10	MCA 個別呼出し運用の	
<b>基本操作(単信方式)</b> .....	11	基本操作.....	32
電源オン・オフ.....	11	MCA 個別呼出し運用の	
音量調節.....	11	応用操作.....	34
チャンネル番号合わせ.....	12	MCA 個別呼出し運用の	
送信.....	13	その他の機能.....	38
受信.....	14	<b>定 格</b> .....	39
その他の通信方法について.....	15	<b>保証・アフターサービスについて</b> .....	40
<b>基本機能</b> .....	17	<b>オプション紹介</b> .....	41
モニター機能.....	17		
キーロック機能.....	17		
エマージェンシー機能.....	18		
秘話機能.....	19		
スキャン機能.....	20		
呼び出しビープ機能.....	21		
オートスリープ機能.....	22		
ビープオフ機能.....	23		
PTT ホールド機能.....	24		
バッテリーセーブ機能.....	24		
バックライト機能.....	24		

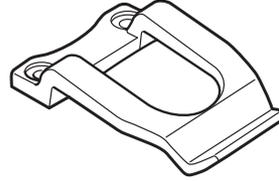
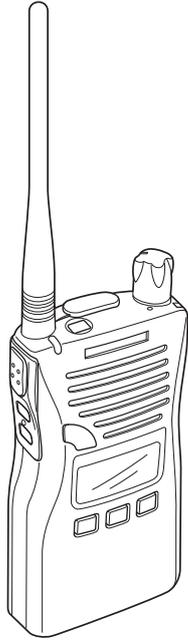
本機は、国内仕様です。国外では  
使用できませんのでご注意ください。

## 本機の特徴

1. 本機は、電波法施行規則第6条「特定小電力無線局」に該当する400MHz帯単信および半複信方式トランシーバーで、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則(証明規則)第2条8号「工場設計の認証(認証)を受けた無線局」です。免許および申請手続きは一切不要ですので、お買い上げいただいたその日から、ご使用になれます。
2. 本格的無線機ながら単3形乾電池2本で動作可能としました。
3. バッテリー残量表示機能を装備していますので、バッテリー消耗度合を知る事ができます。
4. チャンネル数は単信方式として業務用11チャンネル、レジャー用9チャンネル、半複信方式(レピータモード)として業務用18チャンネル、レジャー用9チャンネルの合計47チャンネルを実装しています。
5. グループ番号を決めてのグループ通話(最大38グループ)が可能です。
6. 通話する相手のID番号だけを合わせる事で交信ができるMCA方式の個別呼出し通話が可能です。
7. 通話可能範囲は、周囲の建物等の状況により異なりますが、見通しの良い場所(スキー場や海岸など)では、約1~2Kmです。
8. 別売品の特定小電力無線電話用レピータを使用した通話が可能です。

# 梱包品一覧

無線機本体..... 1台    ベルトクリップ..... 1個



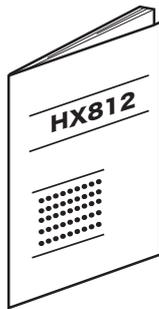
ベルトクリップ取付用ビス..... 2個



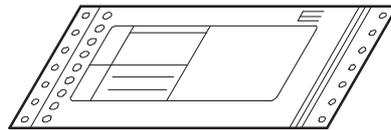
ハンドストラップ..... 1本



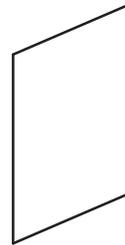
取扱説明書..... 1部



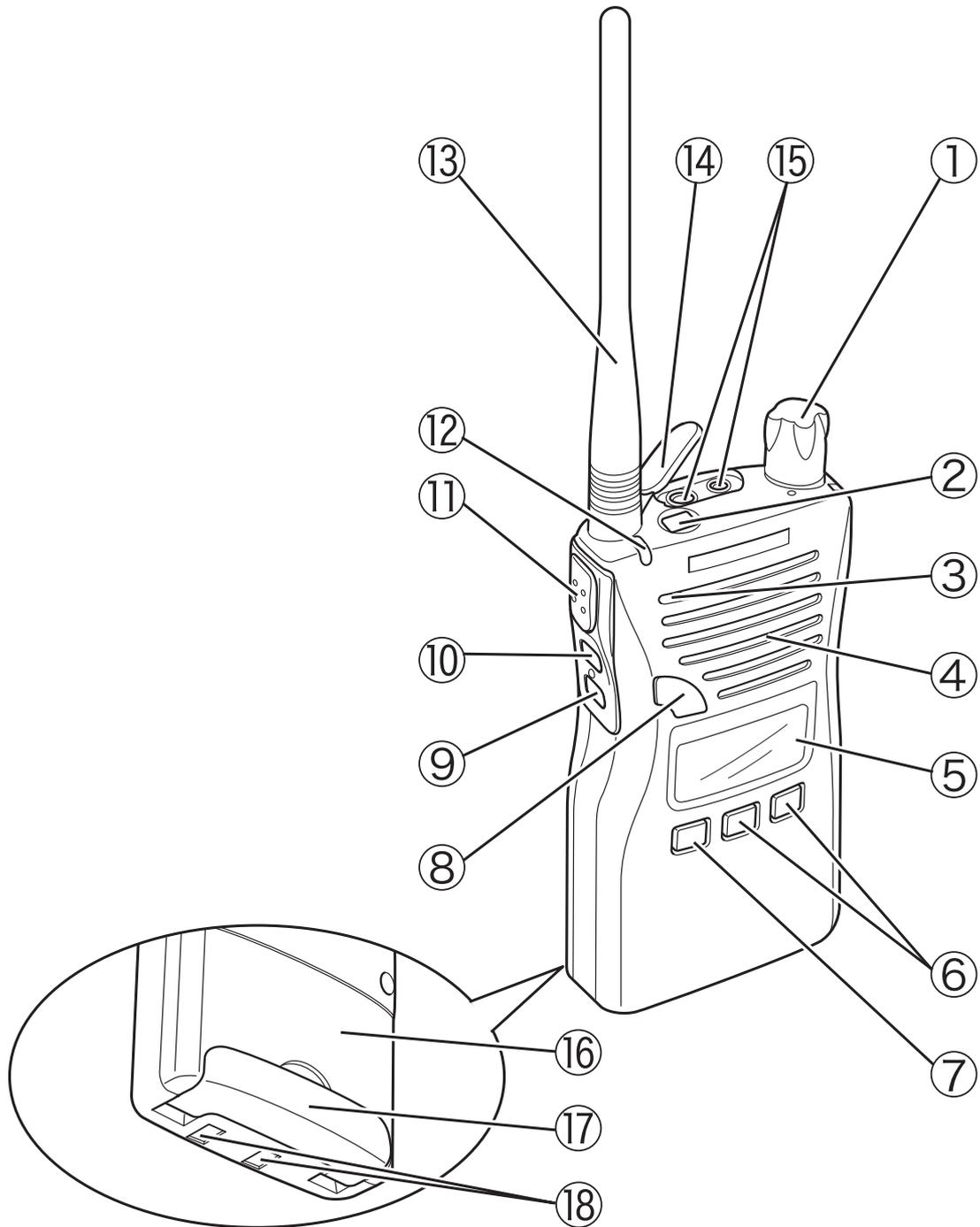
保証書..... 1部



営業所一覧..... 一部



# 各部の名称



## 本体各部の名称

---

- ① 電源スイッチ／音量調節つまみ  
電源の ON/OFF と音量を調節するつまみです。時計方向(🕒)へ回すと電源が入り、音量が大きくなります。  
反時計方向(🕒)へ回し切ると電源が切れます。
- ② エマージェンシーキー  
このキーを 2 秒以上押すと、エマージェンシー機能が働きます。
- ③ 内蔵マイクロホン  
ここに向かって話してください。
- ④ 内蔵スピーカー  
水滴に強いマイラーコーンを使用した直径 36mm のダイナミック・スピーカーを採用しています。
- ⑤ 表示部  
チャンネル／グループの番号、チャンネル／グループ、キーロック機能、電池残量やその他機能の設定状態の表示を行います。
- ⑥ アップキー／ダウンキー：▲／▼  
これらのキーを押すとチャンネル番号または、グループ番号が変わります。キーを押し続けると連続して番号が変化します。尚、キーロックモード(表示部に🔒が表示)のときは、番号の変更ができません。
- ⑦ グループキー：G  
このキーを押すと、グループ機能の設定や解除ができます。
- ⑧ モードキー：MODE  
このキーを押すと、単信方式と半複信方式の切替えができます。
- ⑨ シフトキー：SHIFT  
このキーを押した後に他のキーやスイッチを押すことで、機能を拡張します。  
このキーを 2 秒以上押すと、キーロック状態になります。

⑩ モニターキー： **MONI**

このキーを押すとモニター状態になります。

スピーカーの音量調節を行うときや、通話相手の電波が弱く音が途切れる場合に、このキーを押してください。

一度押すとモニター状態(音声ミュートの解除)になり、もう一度押すとモニター状態が解除されます。

⑪ PTT スイッチ

このスイッチを押すと送信状態になり、はなすと受信状態になります。

⑫ TX/BUSY (送信／受信) ランプ

送信中は赤色に、受信中またはモニター動作状態のときは緑色に点灯します。

⑬ アンテナ

$\lambda/4$  フレキシブルアンテナが本体に固定されています。

⑭ 防水キャップ

別売品の外部マイク&スピーカーを使用しないときは、防水のためにゴムキャップをしておいてください。

⑮ 外部マイクロホン端子 (M) / 外部スピーカー端子 (S)

別売品のマイク&スピーカーを接続する端子です。

外部スピーカー端子 (S) にイヤホンだけを接続することもできます。

⑯ 電池ケース蓋

電池ケースの蓋です。電池を交換するときは、この蓋を取り外します。

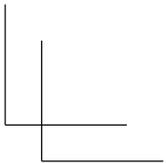
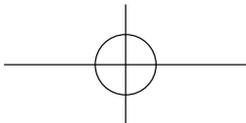
⑰ 電池ケース蓋ロック・クランパー

電池を交換するときに使用します。

クランパーを下げると電池ケース蓋のロックが解除され、電池ケース蓋が取り外せます。

⑱ 充電端子

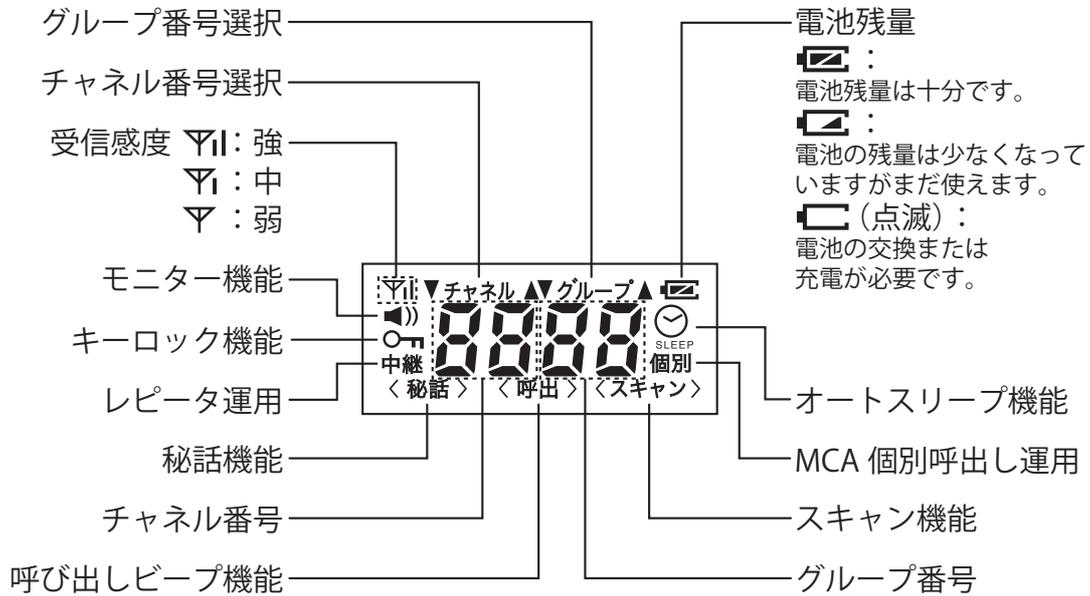
別売品のニッカドバッテリーパック CNB810 を充電するための端子です。



## ⚠ 注意

- 別売品のニッカドバッテリーパック CNB810 を充電するときは、必ず CNB810 専用の充電器 CSA810 をご使用ください。
- 市販のニッカドバッテリーや単 3 形乾電池は充電できません。
- 充電中は、本体の電源スイッチを必ず切ってください。
- 充電端子間は、絶対にショートさせないでください。故障の原因となります。

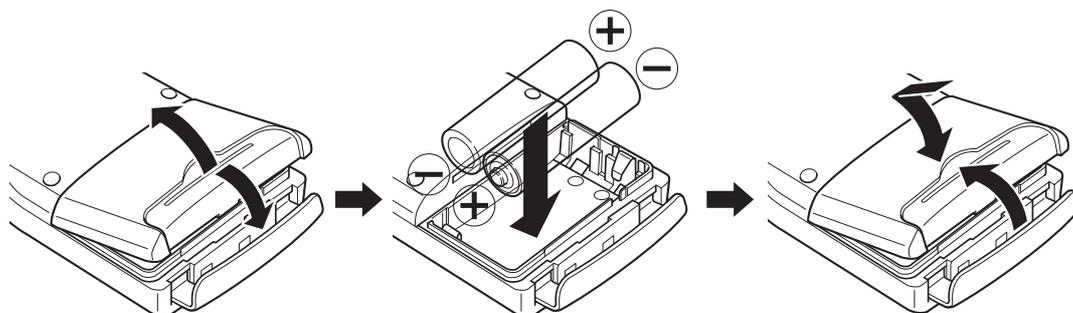
## 表示部名称



## 準備

### 電池の挿入

1. 電源スイッチが切ってあることを確認してください。
2. プラス・マイナスに注意して単3形乾電池を電池ケースに入れてください。  
(別売品のニッカドバッテリーパック CNB810 も使用できます。)
3. 電池ケースの蓋が浮かないように「カチッ」と音がするまで押えつけないが、確実に電池ケース蓋をロックしてください。

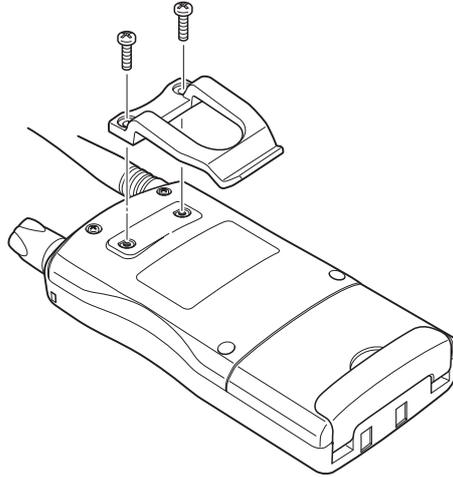


#### ▲ 注意

- 電池ケース蓋が浮いたまま、ロック・クランパーをロックしたり、無理な力で開けるとロック・クランパーが破損する恐れがあります。
- 電池の極性を絶対に間違えない様に注意してください。発熱や故障の原因となります。

## ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップに同封の専用ネジで、下図のように取付けます。

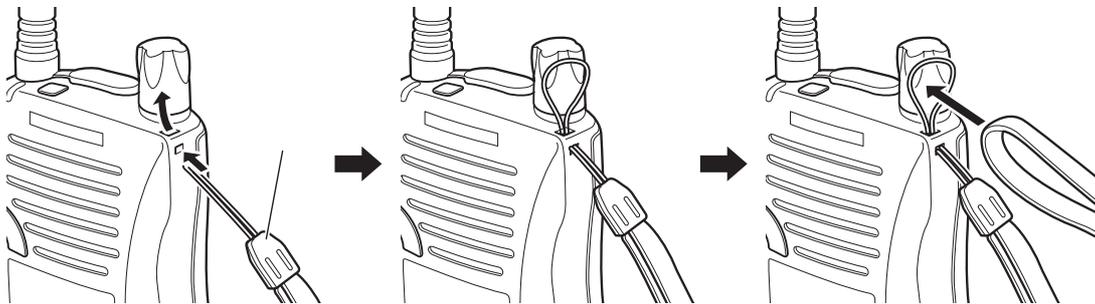


### ▲ 注意

ベルトクリップを取り付けずに付属のネジだけを無線機に取り付けないでください。ネジが無線機の内部を破損し、故障の原因となります。また、ベルトクリップを取り付けるときは、ネジは必ず付属ものを使用してください。付属以外のネジをお使いになると、無線機内部の破損またはベルトクリップの脱落の原因となることがあります。

## ハンドストラップの取り付け

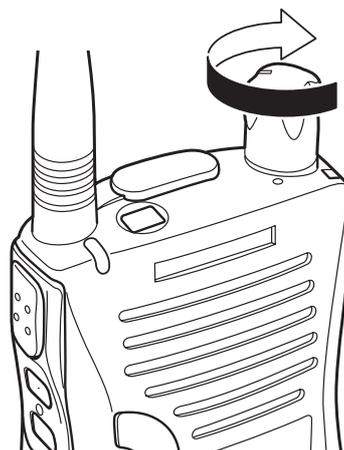
ハンドストラップは、下図のように取付けます。



## 基本操作(単信方式)

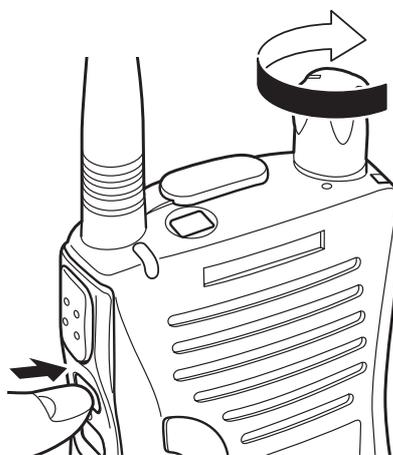
### 電源オン・オフ

1. 電源スイッチを時計方向(↻)に回します。  
電源が入り待受け状態となります。
2. 電源スイッチを反時計方向(↺)に回し切ります。  
電源が切れます。



### 音量調節

1. 電源を入れた後、モニターキー(MONI)を押します。  
ザーという音がでます。  
緑色の BUSY ランプが点灯し、表示部に  
▶))が表示されます。
2. このザー音を聞きながら音量を調節します。
3. 音量調節が終わりましたら、再度モニターキー(MONI)を押します。  
ザーという音が消え、待ち受け状態となります。



## チャンネル番号合わせ

1. 通話する相手とアップキー▲/ダウンキー▼を使ってチャンネル番号を合わせます。



チャンネル番号は、業務用チャンネルの01ch～11ch、レジャー用チャンネルの1ch～9chから選ぶことができます。

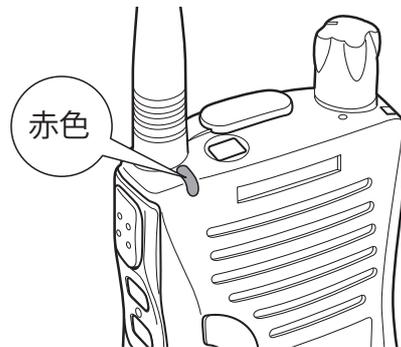


### アドバイス

- (1) 表示部に  が表示されているときは、キーロック状態ですからチャンネル番号の変更はできません。
- (2) 通話する相手とチャンネル番号が一致していないと通話はできません。
- (3) 変更されたチャンネル番号(またはグループ番号)は、2秒後にバックアップされます。一度電源を切った場合でも次回からの運用は、変更後の番号で動作します。

## 送信

1. PTT スイッチを押しながらマイクに向かって話してください。(赤色の TX ランプが点灯します。)



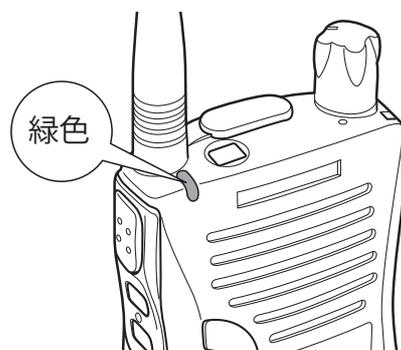
### お願い

本機は、電波法の定める特定小電力無線局の標準規格に基づいた動作になっています。次の点に留意してご使用ください。

- 送信時間は一回約 3 分です。  
3 分以内でご使用ください。  
送信開始後 2 分 50 秒経過時にアラーム音で知らせます。
- 連続送信が 3 分に達した場合は、2 秒間の送信休止時間が自動的に設けられます。  
送信休止のときに、PTT スイッチを押すとアラーム音になります。
- 送信をやめても 2 秒以内に再び送信した場合は、連続した送信時間(3 分以内)に含まれます。
- さらに PTT スイッチを押し続けた場合、同一チャンネルに電波が無ければ、引続き送信状態になります。
- PTT スイッチを押したとき、スピーカーよりアラーム音が出て、緑色の BUSY ランプが点灯している場合は、すでに同一チャンネルが使用されていることを意味します。  
これは、混信を防ぐ目的で送信を禁止しているためです。  
BUSY ランプが消えてから送信してください。

## 受信

1. 相手が応答すると緑色の BUSY ランプが点灯し、スピーカーより相手の音声が聞こえます。



交信相手の電波が弱く相手の音声が途切れるときは、モニターキー **(MONI)** を押します。

## その他の通信方法について

### グループ通話(25ページ)

グループ単位で運用する場合に使います。  
チャンネル番号とグループ番号が同一の相手のみ通話可能です。



(例：01 チャンネル、01 グループの場合)

グループ番号設定は、グループキー **G** を押して、表示をグループにし、12 ページのチャンネル番号合わせと同様に行います。  
グループ番号表示のときは、▲グループ▼と表示部に表示されます。

### レピータ(半複信方式)運用(26ページ)

別売品の中継局(レピータ)を使つての半複信方式の運用です。  
レピータを使うことで、通話の範囲を広げることができます。  
レピータ運用の設定は、モードキー **MO** を押して、表示を中継にし、12 ページのチャンネル番号合わせと同様に行います。



レピータ運用とグループ通話は併用して使えます。この時、チャンネル番号とグループ番号が同一の相手のみ通話可能です。

## MCA (Multi Channel Access) 個別呼出し運用 (28ページ)

予め設定されている通話相手のID番号のみを選んで、通話します。この時、空きチャンネルは無線機が自動的に探し出します。



MCA 個別呼出し運用の設定は、モードキー  を押しながら電源を入れて、MCA 個別呼出し運用の選択と各 MCA 個別呼出し運用のための項目を設定します。(29ページ)



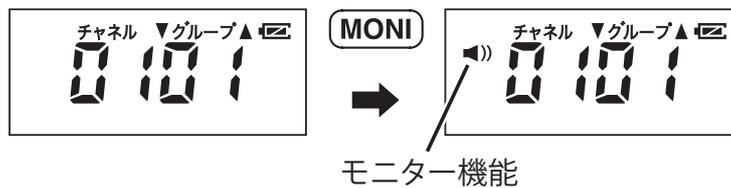
MCA 運用とグループ通話の併用はできません。

# 基本機能

## モニター機能

通話相手の電波が弱く音声途切れるときなどにお使いください。

1. モニターキー **(MONI)** を押します。  
モニター機能が働きます。



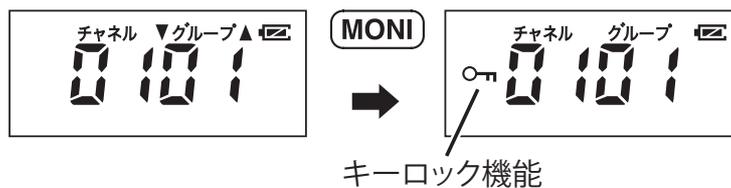
2. モニター機能を解除するには、再度モニターキー **(MONI)** を押します。

## キーロック機能

キーロック機能が働くと、次のキー操作ができなくなります。

モードキー **(MODE)**、グループキー **(G)**、アップキー **(▲)**、ダウンキー **(▼)**

1. シフトキー **(SHIFT)** を 2 秒以上押します。  
キーロック機能が働きます。



キーロック機能は、電源を切って、再度入れ直しても保持されています。

2. キーロック機能を解除するには、再度シフトキー **(SHIFT)** を 2 秒以上押します。

## エマージェンシー機能

緊急時であることを、通話相手にアラーム音で知らせることができます。

1. エマージェンシーキーを2秒以上押します。  
エマージェンシー機能が働きます。



アラーム音が鳴りバックライトが点滅します

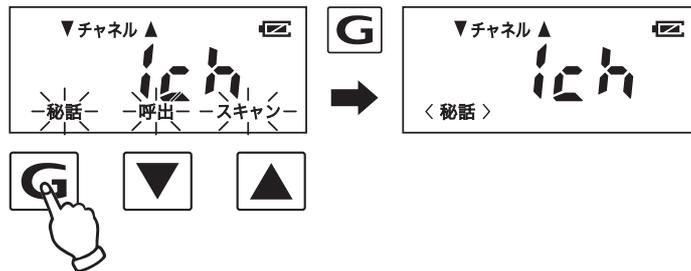
エマージェンシー機能が働くと自分のスピーカーからも最大音量でアラーム音が出ますのでご注意ください。但し外部スピーカー端子にオプションを接続しているときは音量調節ができます。

2. エマージェンシー機能を解除するには、再度エマージェンシーキーを2秒以上押します。

## 秘話機能

通話の内容を他の人に聞かれない時に、秘話機能を働かせます。

1. シフトキー~~(SHIFT)~~を押します。  
秘話・呼出・スキャンの表示が点滅します。
2. グループキー~~(G)~~を押します。



秘話が<秘話>表示になります。

3. 秘話機能を解除するには、シフトキー~~(SHIFT)~~を押した後に、グループキー~~(G)~~を押します。

### アドバイス

- (1) 既に選択されている機能は、機能名が< >内に表示されます。

### ▲ 注意

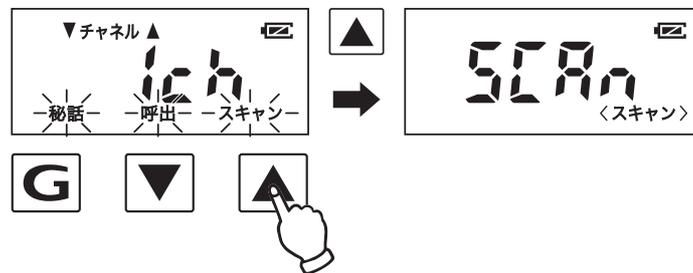
秘話機能を使っても、高度な技術を使うと通話の内容が聞かれることがあります。重要な機密事項を秘話機能を使って通話されるときはご注意ください。

## スキャン機能

チャンネルをスキャンして電波のあるチャンネルを探し出す機能です。スキャンは、単信方式・半複信方式のどちらでも行えます。

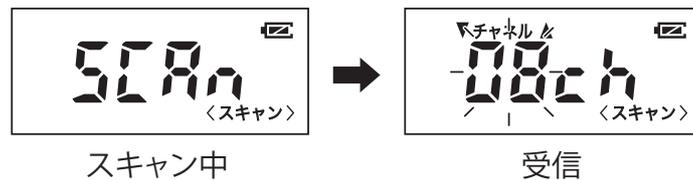
ただし、単信方式のグループ運用をしているときは、同じグループでないと、スキャンで信号を見つけてもスキャンは停止しません。

1. シフトキー $\text{[SHIFT]}$ を押します。  
秘話・呼出・スキャンの表示が点滅します。
2. アップキー $\blacktriangle$ を押します。



スキャンが始まります。

3. 電波を受信すると、チャンネルが表示されることを確認します。



4. スキャン機能を解除するには、シフトキー $\text{[SHIFT]}$ を押した後に、アップキー $\blacktriangle$ を押します。

### アドバイス

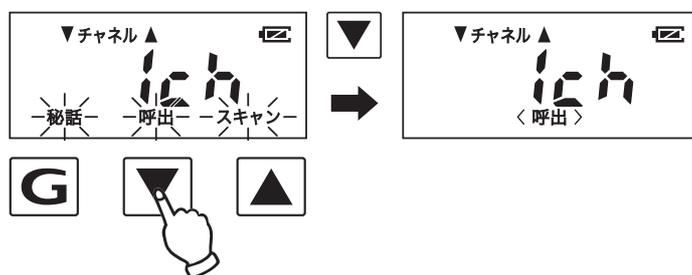
- (1) 電波を受信してスキャンが停止した場合は、アップキー $\blacktriangle$ またはダウンキー $\blacktriangledown$ を押して、スキャンを再開できます。
- (2) スキャン中の状態は、電源を切って再度入れ直しても保持されています。

## 呼び出しビーブ機能

電波を受信した時に、ビーブ音を鳴らす機能です。

ただし、グループ運用をしているときは、同じグループでないと、受信してもビーブ音は鳴りません。

1. シフトキー $\text{[SHIFT]}$ を押します。  
秘話・呼出・スキャンの表示が点滅します。
2. ダウンキー $\text{[▼]}$ を押します。



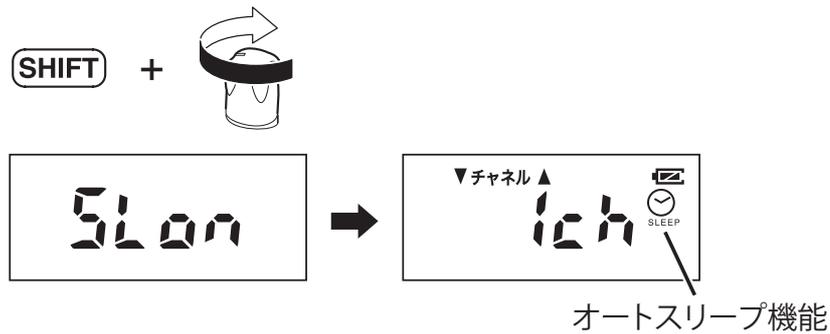
呼出が<呼出>表示になります。

3. 電波を受信すると、ビーブ音が鳴ることを確認します。  
呼出しビーブ音は、どれかキーを押すと止まります。  
ビーブ音が止まると通常の受信音声を聞く事ができます。
4. 呼び出し機能を解除するには、シフトキー $\text{[SHIFT]}$ を押した後に、ダウンキー $\text{[▼]}$ を押します。

## オートスリープ機能

2時間以上通話や操作が無いとスリープ状態になり、電池の消費を防ぐ機能です。

1. 電源を切ります。
2. シフトキー(**SHIFT**)を押しながら、電源を入れます。  
オートスリープ機能が働きます。



オートスリープが働いたときは、表示部が消灯します。

3. オートスリープを解除するには、一度電源を切ってから再びシフトキー(**SHIFT**)を押しながら電源を入れます。

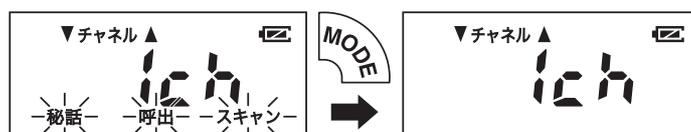
### アドバイス

- (1) オートスリープの状態でも若干の電池の消費があります。長い時間使用しない場合は、電源スイッチで電源をオフにしてください。

## ビーブオフ機能

設定の操作などを行った時のビーブ音を鳴らさないようにすることもできます。

1. シフトキー **(SHIFT)** を押します。  
秘話・呼出・スキャンの表示が点滅します。
2. モードキー **(MODE)** を押します。  
ビーブオフ機能が働きます。



3. どれかのキーを押して、ビーブ音が鳴らないことを確認します。
4. ビーブオフ機能を解除するには、再度シフトキー **(SHIFT)** を押した後に、モードキー **(MODE)** を押します。

### アドバイス

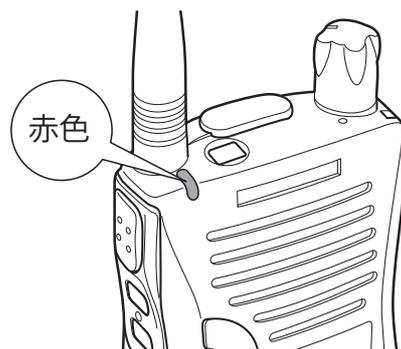
- (1) 送信禁止やエマージェンシーなどのビーブ音はこの機能を使っても止めることはできません。

## PTT ホールド機能

---

PTT スイッチから手を放しても送信状態のままとなります。

1. PTT スイッチを押しながら、アップキー▲を押します。  
PTT ホールド機能が働きます。  
連続して送信できるのは3分間です。3分間を経過すると、この機能は解除され、送信は止まります。



2. PTT ホールド機能を解除するには、再度アップキー▲を押します。

## バッテリーセーブ機能

---

電池の消耗を防ぐ為に、通常は常にバッテリーセーブ機能が働いています。

## バックライト機能

---

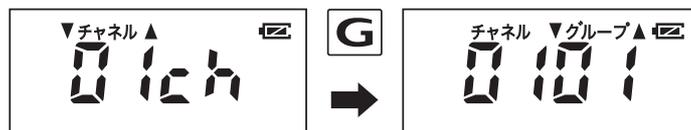
暗い場所でキーが押された時に、自動的に表示部とグループキー[G]、アップキー▲、ダウンキー▼のバックライトが5秒間点灯します。  
PTT スイッチ、エマージェンシーキーを押しても、バックライトは点灯しません。  
また、キーが押されても、明るい場所ではバックライトは点灯しません。

## 応用操作

### グループ通話

同じチャンネルを使用している他の人の通話が混信するときに、グループ通話を使うと同じグループの人だけの通話を聞くことができます。

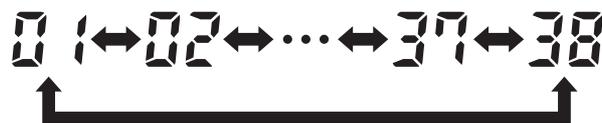
1. 通話する相手とアップキー▲/ダウンキー▼を使ってチャンネル番号を合わせます。
2. グループキー[G]を押します。  
グループの表示がでます。



3. 通話する相手とアップキー▲/ダウンキー▼を使ってグループ番号を合わせます。



グループ番号は、業務用チャンネル、レジャー用チャンネルともに01～38から選ぶことができます。



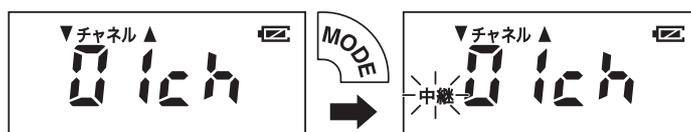
### アドバイス

- (1) 同じチャンネルでグループ通話の設定をしていない人には、通話が聞こえてしまいますのでご注意ください。

## レピータ運用 (半複信方式)

HX812 を使用してより広いサービスエリアを確保したいときは、別売品の特定小電力無線電話用レピータのご利用をお薦めします。

1. 無線機の電源を入れます。
2. モードキー  を押します。

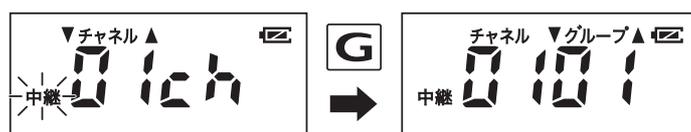


中継が表示されます。

3. アップキー  / ダウンキー  を押して、無線機のチャンネルをレピータのチャンネルと一致させてください。  
チャンネルは、01ch ~ 18ch と 1ch ~ 9ch から選ぶことができます。



4. グループ通話の設定をしているときは、無線機のグループ番号をレピータのグループ番号と一致させてください。



実際の使用方法は、レピータの取扱説明書をご覧ください。

### アドバイス

- (1) チャンネルが一致しないと通話できません。
- (2) グループ通話の設定をしているときは、グループ番号も一致しないと通話できません。
- (3) グループ番号は、レピータ局のアクセス(レピータ局を駆動する)信号として使用されます。

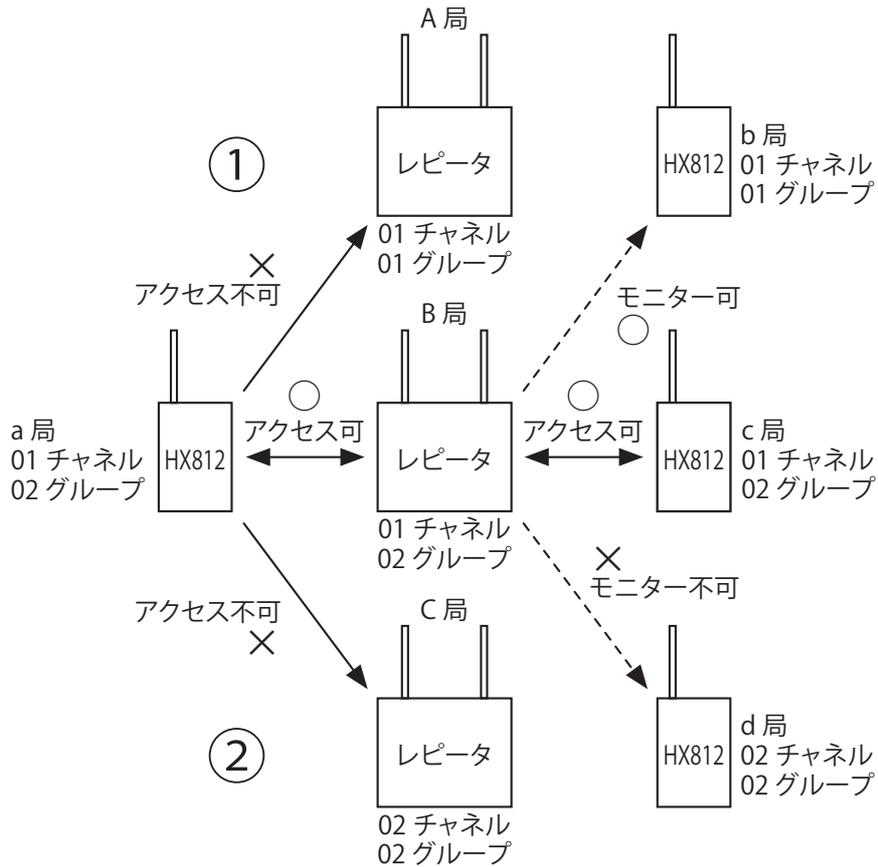
- (4) レピータ局のアクセス信号は、レピータ局毎に異なります。  
レピータ局のサービスエリアや、アクセス信号の設定に関しては(株)スタンダードの営業所または、販売店にご相談の上ご利用ください。

■ レピータ局の運用例図(グループ通話の設定をしているとき)

図は a 局が B 局(レピータ局)を中継局として c 局と通話を行っている状態を示しています。

例：①の場合は、グループ番号が一致していないため通話できません。

例：②の場合は、チャンネル番号が一致していないため通話できません。B 局のレピータの信号は、チャンネル番号が一致している b 局 c 局でモニターできます。しかし、d 局は、チャンネル番号が一致していないのでモニターできません。また、c 局は B 局のレピータをアクセスすることができます。しかし b 局は、グループ番号が一致していないのでアクセスできません。

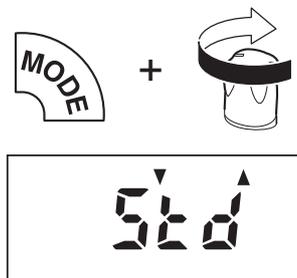


# MCA 個別呼出し運用

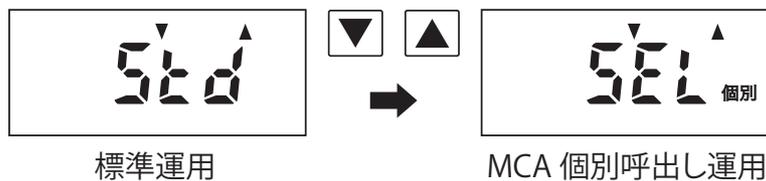
## MCA 個別呼出し運用への切り替え

予め設定されている通話相手の ID 番号を選んで通話します。この時、空きチャンネルは無線機が自動的に探し出します。したがって、通話相手とチャンネルを合わせたり、チャンネルが空くのを待つ必要がありません。

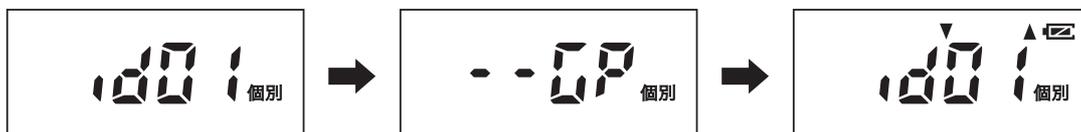
1. モードキー  を押しながら、電源を入れます。  
標準運用 / MCA 個別呼出し運用 選択になります。



2. アップキー  / ダウンキー  を押し、表示を MCA 個別呼出し運用表示にします。



3. 一度電源を切って、再度電源を入れます。  
全点灯表示の後に、MCA 個別呼出し運用の設定内容 (29 ページ) が表示され、MCA 個別呼出し運用表示になります。



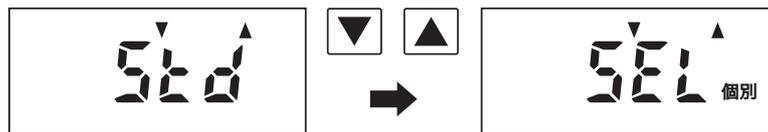
## アドバイス

- (1) MCA 個別呼出し運用を選択してから、2 秒以上経ってから電源を切ってください。MCA 個別呼出し運用を選択してから、2 秒未満で電源を切ると、MCA 個別呼出し運用が選択されません。

## MCA 個別呼出し運用のための設定

MCA 個別呼出し運用をするためには、予め設定を行っておく必要があります。

1. モードキー  を押しながら、電源を入れます。
2. アップキー  / ダウンキー  を押し、表示を MCA 個別呼出し運用表示にします。



3. シフトキー  を押し、自局の ID 番号設定表示にします。



4. アップキー  / ダウンキー  を押し、自局の ID 番号を選択します。

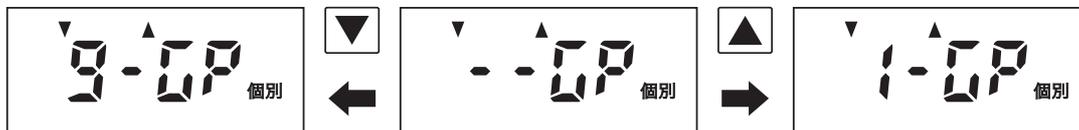


ID 番号は、01 ~ 99 から選ぶことができます。

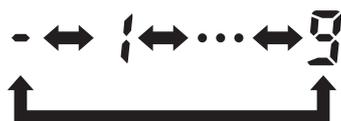
5. シフトキー  を押し、自局のグループ番号設定表示にします。



6. アップキー▲/ダウンキー▼を押し、自局のグループ番号を選択します。



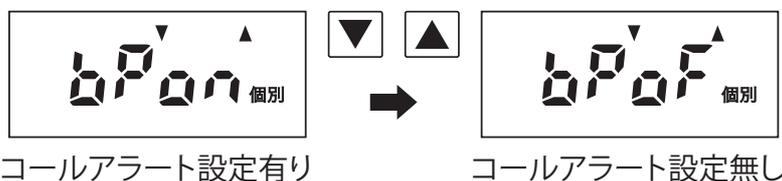
グループ番号は、1～9とー(グループ番号無し)から選ぶことができます。



7. シフトキー(SHIFT)を押し、コールアラート設定表示にします。



8. アップキー▲/ダウンキー▼を押し、コールアラート設定を選択します。

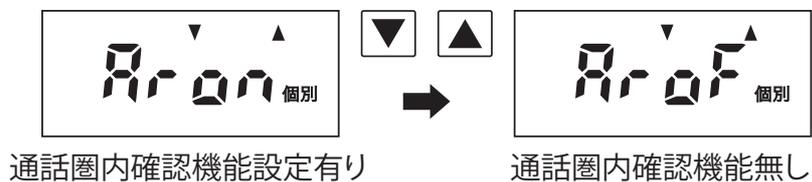


コールアラート設定有りが選ばれると、設定した自局 ID で呼ばれたときに、ビープ音がなります。

9. シフトキー(SHIFT)を押し、通話圏内確認機能設定表示にします。



10. アップキー▲/ダウンキー▼を押し、通話圏内確認機能設定を選択します。



通話圏内確認機能有りが選ばれると、通信相手と通話可能な圏内にいるかを1分間隔で確認できます。通話可能圏内にいるときは、▼が点滅します。

11. シフトキー(SHIFT)を押し、MCA 個別呼出し運用表示に戻します。
12. 設定を変更する場合は、シフトキー(SHIFT)を何度か押し、変更したい設定表示に戻り、設定を行います。
13. 設定を終了する場合は電源を切ります。

## MCA 個別呼出し運用の基本操作

### 個別呼出し

特定の人を ID 番号を使って呼び出す方法です。

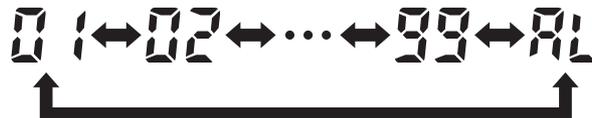
1. MCA 個別呼出し運用を既を選択している状態で、電源を入れます。  
設定した(29 ページ) 自局の ID 番号とグループ番号が表示された後に、待受け状態になります。



2. 通話する相手の ID 番号をアップキー▲/ダウンキー▼を使って選択します。

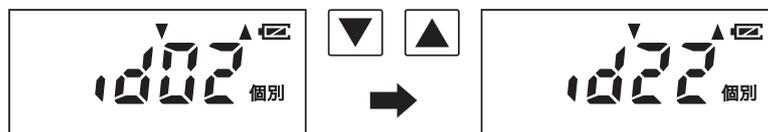


ID 番号は、01 ~ 99 から選ぶことができます。



ID 番号を「AL」にすると、id01 ~ id99 の全ての人を呼び出すことができます。

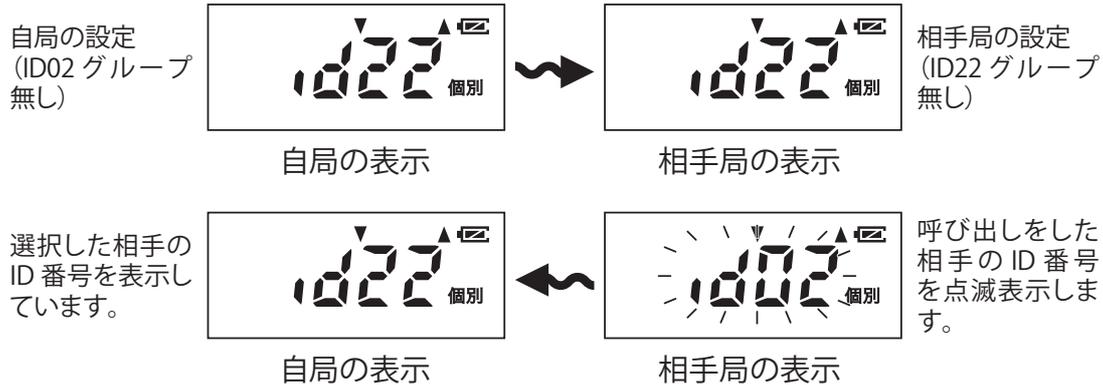
ここでは、例として ID 番号 02 の人が ID 番号 22 の人を呼び出しますので、ID 番号 22 を選択します。



### 3. PTTスイッチを押し、相手を呼び出します。

相手との通話ができる状態になると「プルル」というビープ音が鳴り、送信を開始します。

通話状態になると、相手局の表示には、呼び出しをした局のID番号が点滅表示されます。(呼出相手番号表示機能)



### アドバイス

- (1) 通話時間は 1 回 3 分です。
- (2) 通話が 3 分に達した場合は、2 秒の送信休止時間が自動的に設けられます。
- (3) 通話が行われない状態が 2 秒以下の場合は、連続した通話時間 (3 分以内) に含まれます。
- (4) 呼出相手番号表示は、通話が終了しても 3 秒間保持されます。  
この表示をしている間に PTT を押すと、待受け時に選択した ID 番号に関係なく、表示している相手と通話することができます。

## MCA 個別呼出し運用の応用操作

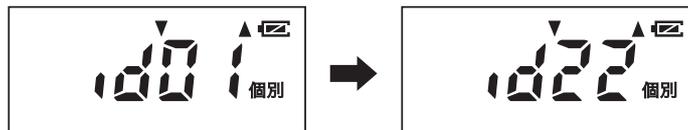
### グループ呼出し

ID 番号に更に、グループ番号を付けることで、場所や部門等でグループ分けをしてお使いになる場合に便利に呼び出しができます。

1. MCA 個別呼出し運用を既に変更している状態で、電源を入れます。  
設定した(29 ページ) 自局の ID 番号とグループ番号が表示された後に、待受け状態になります。



2. 通話相手の ID 番号をアップキー▲/ダウンキー▼を使って選択します。



3. グループキー[G]を押します。

4. 通話相手のグループ番号をアップキー▲/ダウンキー▼を使って選択します。

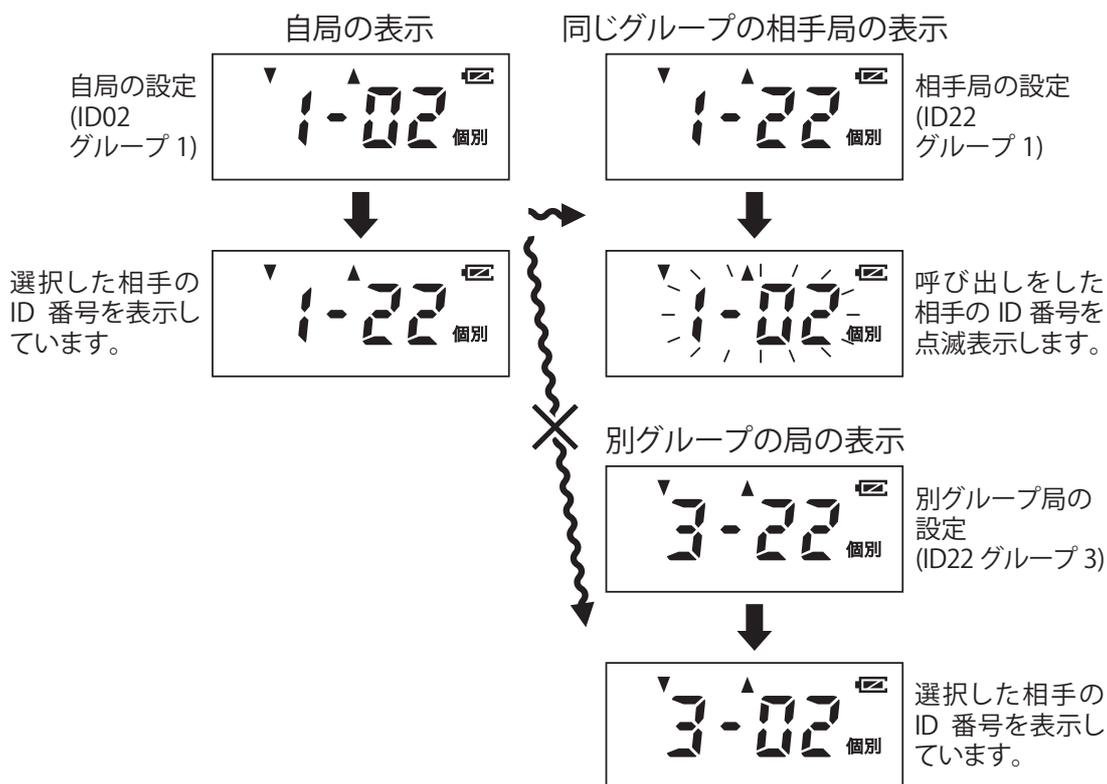


グループ番号は、1～9、ALL (全一斉呼出し)と id (グループ番号無し)から選ぶことができます。



ALL を選ぶと、全てのグループと ID 番号の局を呼出すことができます。

5. PTTスイッチを押し、相手を呼び出します。  
 相手との通話ができる状態になると「プルル」というビープ音が鳴り、送信を開始します。  
 通話状態になると、相手局の表示には、呼び出しをした局のID番号が点滅表示されます。(呼出相手番号表示機能)

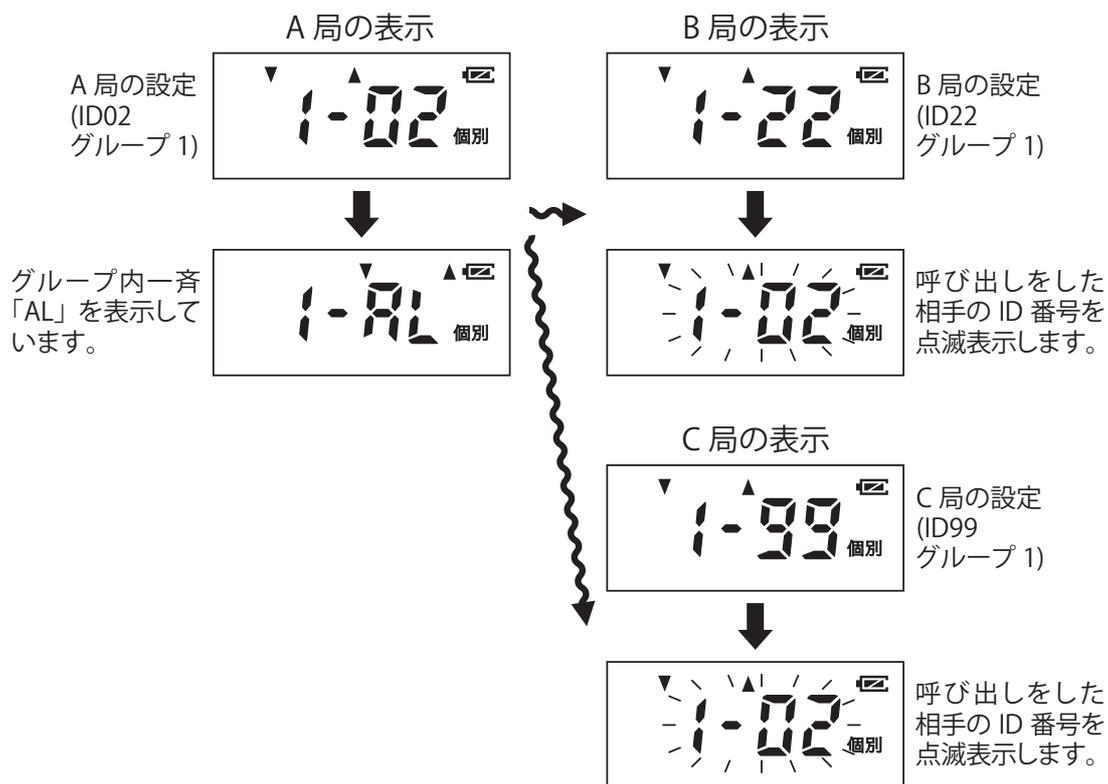


ID番号が同じでも、グループ番号が違う相手は呼び出しされません。

## グループ内一斉呼出しと全一斉呼出し

### 1. グループ内一斉呼出し

ID 番号を「AL」にすると同じグループ内の id01 ~ id99 の全ての人を呼び出すことができます。

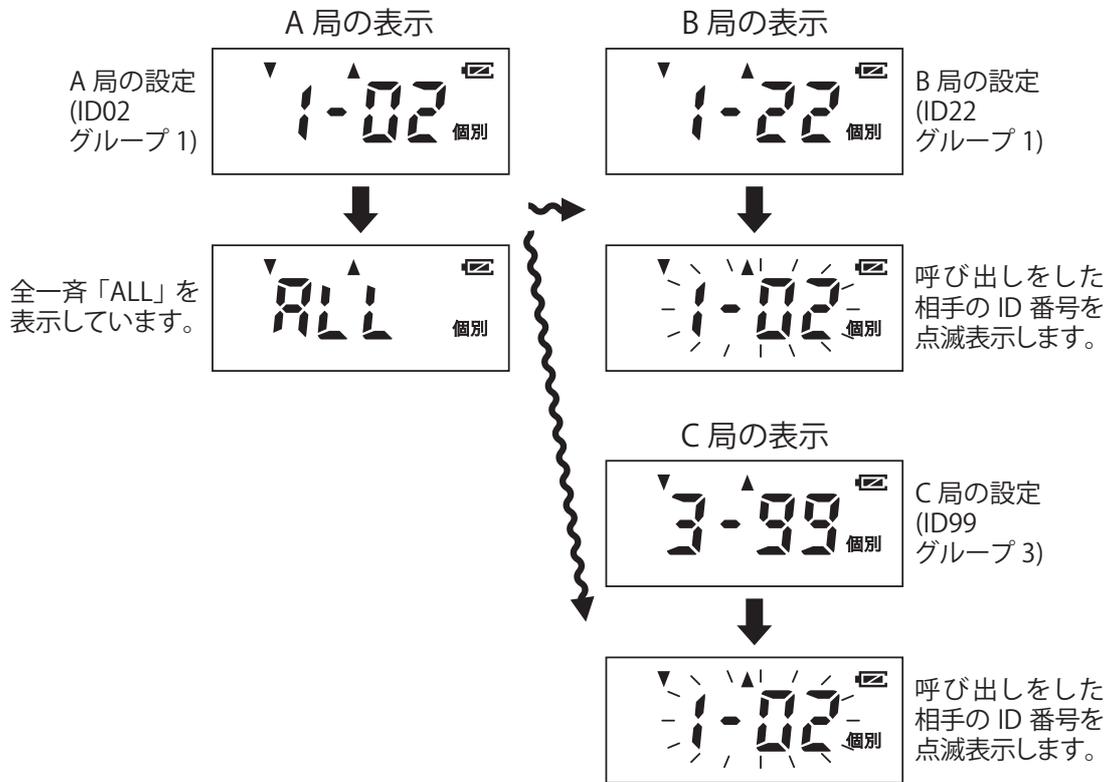


グループ内一斉呼び出しを受けた局は、呼び出した局の ID 番号を点滅表示します。(呼出相手番号表示機能)

この表示をしている間に PTT を押すと、待受け時に選択した ID 番号に関係なく、表示している相手と通話することができます。呼出相手番号表示は、通話が終了しても 3 秒間保持されます。

## 2. 全一斉呼出し

グループ選択で「ALL」を選択するとグループ番号や ID 番号の設定にかかわらず、全ての人を呼び出すことができます。



全一斉呼び出しを受けた局は、呼び出した局の ID 番号を点滅表示します。(呼出相手番号表示機能)

この表示をしている間に PTT を押すと、待受け時に選択した ID 番号に関係なく、表示している相手と通話することができます。呼出相手番号表示は、通話が終了しても 3 秒間保持されます。

## MCA 個別呼出し運用のその他の機能

### リモートモニター機能

通話相手を自動的に送信状態にして、モニターすることができます。

1. 相手と通話状態にします。
2. PTTスイッチを押して送信中に、モードキー  を押します。



モニターアイコンが点滅します。

通話相手にリモートモニターのコマンドが送信されて、相手の局が送信状態になります。

3. PTTスイッチを放すと、相手の局の送信をモニターすることができます。
4. リモートモニターの動作を解除するには、送信状態になっている局のアップキー  を押します。

### アドバイス

- (1) リモートモニター動作で連続して送信できるのは3分間以内です。
- (2) 3分間を経過すると、この機能は解除され、送信は止まります。

## 定 格

### ● 一般仕様

送受信周波数	400MHz 帯の 48 チャンネル (制御チャンネルを含む)
電波形式	F3E および F1D (制御チャンネルは F1D のみ)
通信方式	単信方式および半複信方式
定格電圧	+ 2.4V
発振方式	水晶発振により制御する周波数シンセサイザー方式
周波数切替方式	手動切替および自動切替
周波数の許容差	± 4.0ppm 以内
寸法	幅 58.5mm 高さ 115mm 奥行き 28mm (アンテナ、突起物含まず)
質量	約 175g (CNB810 装着時)

### ● 受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
第 1 中間周波数	21.6MHz
第 2 中間周波数	455kHz
受信感度	- 7dB $\mu$ 以下 (12dB SINAD 法にて)
スケルチ感度	- 10dB $\mu$ 以下
低周波出力	180mW 以上 (電源電圧 + 2.4V 10% ひずみにて)
スピーカーインピーダンス	8 $\Omega$
副次的に発射する電波等の強度	4nW 以下

### ● 送信部

送信出力	10mW 以下
変調方式	可変容量ダイオードによる直接周波数変調方式
占有周波数帯域幅	8.5kHz 以内
最大周波数偏移	± 2.5kHz 以内
不要輻射	2.5 $\mu$ W 以下
識別符号伝送速度	300bps

### ● 電池使用可能時間の目安

ニッカドバッテリーパック CNB810	約 9 時間
単 3 形マンガン電池	約 8 時間
単 3 形アルカリ電池	約 24 時間

条件：送信 30 秒、受信 30 秒、待受け 4 分の割合で動作させた場合

- 本機の規格および外観は改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

## 保証・アフターサービスについて

1. この商品には、保証書を添付しています。保証書は、「お買い上げ販売店印・保証期間」をご確認のうえ、お受け取りください。
2. 保証書は、よくお読みのうえ大切に保管してください。
3. 保証期間は、お買い上げの日より一年間です。正常なご使用で、この期間内に故障したときは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」いたします。
4. 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、ご要望により有償修理いたします。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等によるアフターサービスについての不明点は、お買い上げになった販売店または添付の(株)スタンダードの各営業所にご遠慮なくご相談ください。
6. この商品は、無線設備規則第49条14に基づき、容易に開けられない構造になっています。そのために特殊なビスにより組み立てられています。アフターサービスの際は、必ずお買い上げ販売店または(株)スタンダードの各サービスセンター、営業所にお問い合わせください。

## オプション紹介

CNB810 .....	ニッカドバッテリーパック
CSA810.....	デスクトップチャージャー
CMP111 .....	マイク&スピーカー
CMP115 .....	小型マイク&スピーカー
CHP111 .....	PTT 付きヘッドセット
CMP113 .....	タイピンマイク
CHP150 .....	VOX 付きヘッドセット
CMP816C.....	タイピン型マイク&イヤホン
CMP123 .....	イヤホンマイク

## 株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒4丁目8番8号

お問い合わせは、最寄りの株式会社スタンダード、各営業所、サービスセンターで承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

Printed in Japan

2005/05 00M36AB851110